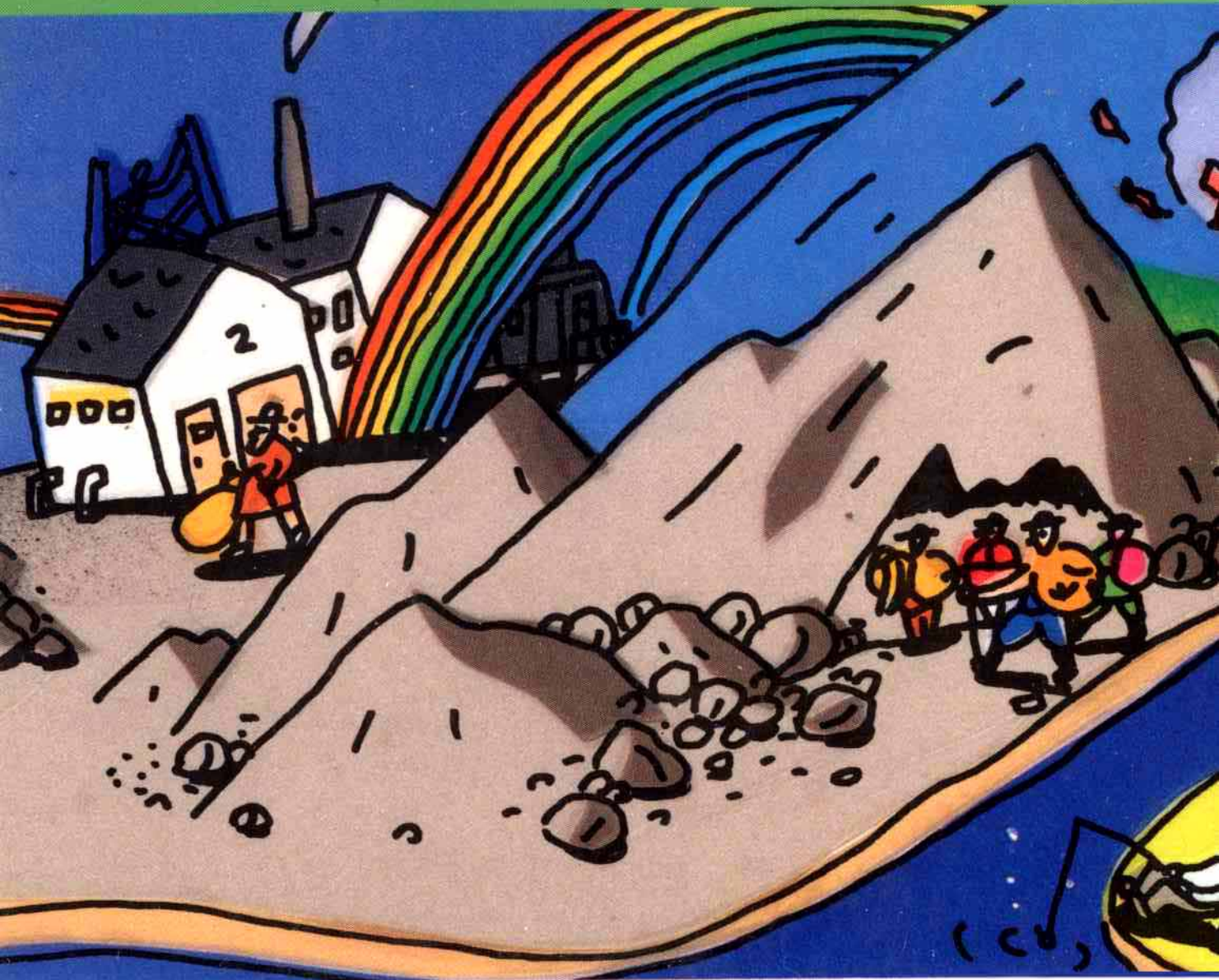



# 山医者のうた

## 見川鯛山



YAMA-ISHA NO UTA

集英社文庫

 集英社文庫

やま いしや  
山医者のうた

1989年12月20日 第1刷

定価はカバーに表示してあります。

著者 見川 鯛山

発行者 若菜 正

発行所 株式会社 集英社

東京都千代田区一ツ橋2-5-10  
〒101-50

(230) 6100 (編集)

電話 東京 (230) 6393 (販売)

(230) 6080 (製作)

印刷 大日本印刷株式会社

本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

落丁・乱丁の本が万一ございましたら、小社製作課宛にお送りください。  
送料小社負担でお取り替えいたします。

© T.Mikawa 1989

Printed in Japan

ISBN4-08-749528-0 C0193

集英社文庫

山 医 者 の う た

見 川 鯛 山

版



目次

大旅行 ..... 八

爺さまと婆さま ..... 七

毛のはえた果実 ..... 六

冬がまえ	八九
テル子さんの御亭主	九三
北風の日	一〇三
大写真	一〇九
大写真異聞	一一四
茶島巡査が辞める	一二九
高額所得者番付	一三四
ケモノ径	一二九

ある不敵な覚悟

一三三

毛

一三八

秘密

一四三

宣戦布告!!

一四八

チキンカツ

一五三

満作オジさん

一五八

解説 久美沙織





山医者のうた

## 大旅行

一

この十日ほど、私は胃をわづらつてゐる。診察してもらつたら、医者は「なにかへんな物を食つたおぼえはないか」と訊き、たぶんツレの食いすぎだろう、と言つた。

で、ずうつと薬を貰つて飲んでゐる。見川医院のよりも効くみたいである。

だが、シクシクしたりムカムカする症状は、依然としてはかばかしくない。とくにムカムカがひどい。だから家内は言うのだ。

「アンタ妊娠したんじゃない？ 婦人科で、もう一度みて貰つたらア」

そしてもっと憎々しげに言う。

「とにかく私が作つたもんが原因じゃないんだからねツ!! 夜なかにこっそり、へんなものを食べるからだよツ」

じつを言うと私は、医者や家内が指摘してるように、ヤムにやまれぬ事情があつて、こ

のところずうっとヘンな物を食べている。すなわちインスタント食品である。

私がこの食品類の研究をはじめたのは、もう数カ月も前であるが、殊にこの二週間というものは、役頭しきっていた。そしてそれは、県の食品衛生局や業界からの依頼によるものではなく、まったく自発的にであった。

初めのころは安易な気持でこの研究にとり組んでいたのであったが、ひとたび手をつけてみるとナマやさしい仕事ではなかった。しかも私は、深夜ひそかに実験を重ねているので、誰かの助けを借りるという訳にいかなかった。

かいつまんで言うならば、私はこの研究テーマを二つの分野にわけて考えている。すなわち、

\*どの種のものがいちばん美味であるか？

\*いずれがいちばん携帯に便利であるか？

である。そして、当然その次に要求される問題は、栄養価や価格や、熱湯をそそいでから完成するまでの時間の長短などであるが、この点については、業界も消費者もサシテ問題としていないので、研究のワクから外すことにした。

ちなみに、私が那須じゅうの食品店、つまり、神山商店、板室屋、丸屋、釜徳商店、さ

んこうスーパーなどから買い集めたものの中で、その主だったものだけについて列記すると、次のとおりである。

日清食品 カップヌードル 百二十円（三分間） コップ型

同 焼きそばUFO 百十円（五分間） コップ型

ヤマタイ食品 醤油味<sup>しょうゆ</sup>ニュータッチヌードル 百二十円（三分間） コップ型

サッポロ一番 カレーうどん 百円（五分間） コップ型

エースコック カップ焼きそばバンバン 百十円（三分間） 弁当箱型

大黒食品 風雷大盛りざるそば 百十円（三分間） 弁当箱型

明星 カップリーナ醤油味ラーメン 百円（三分間） コップ型

などが挙げられ、このほかにまだTVコマーシャルで歌っているところの、

「麺にタマゴをねりこんだ……卵めんや、マルちゃんの、可愛いまサ子はお碗のお舟

「大きめナナア」狐カップうどん 百十円（五分間） 碗型

などもある。しかもこのマルちゃんには三千円の懸賞金までついていて、じつに楽しいウドンである。そして私がまとめた品目リストには、これらのほかにも数十種の製品が詳しく分類されているが、とうていここに書ききれぬものではない。

だが結論として私は、風雷大盛りざるそばと、へ可愛いマサ子はお碗のお舟……を推奨したい。両者ともカサばらず、それでいて大盛りである。とくに、へ可愛いマサ子……の方は、こうも歌っている。へお碗大きめお味よし……。まずこの二つが横綱格であろう。味については、まあコレと云って特色のあるものはないが、各社とも一生懸命に知恵をしぼっていて、みんな美味しい。

だが家内はこう言っている。

「アンタは腹っぺらだし、ベロも鈍感だから、なに食べてもうまいんだよ。その点、奥さんとしてワタシは楽でいいけど……」

ヤツがどう言おうと、美味しいものは美味しいのであって、だから食べすぎて胃をわずらっている。では何故、このようなハタ目には馬鹿とも思われる研究をやったかと言うと、私  
がこれから旅立つにあたっての携行食料の選定が目的であった。家内は「魚釣りやキャン  
プに行くわけじゃないんだから、そんなもの持っていくことないジャー」と言っている。

だが、私は絶対に持っていくのである。しかも、へ可愛いマサ子……や風雷大盛りざるそばのほかに、すでに数々の食料がトランクに詰めてある。ざっとこんなふうである。

梅干し、味噌、醤油、胡瓜古漬け、塩昆布のビニール袋がぎっしりで、その隣が電気湯

沸器、湯呑み、急須、番茶、箸、めし碗、などであり、そこへ並んで、へ可愛いマサ子

……たちが入るのである。すでに食料関係でトランクは一杯であるから、その僅かな隙間

ヘシヤツだの猿股ざるまただのを、棒で突つついて押しこんであり、ガタともするものではない。

私たち夫婦は、間もなくカナダ国観光旅行に行くのである。

「ワタシあそんなものゼツタイ食べないよ。うんと西洋料理たべるのだからア。エビだのカニだの、美味いんだってよオ!!」

ヤツはもう、アゴをむずむずさせているが、私は断然、へ可愛いマサ子は……を食う。

私は西洋便所もニガ手である。氣持がわるいのである。如何どうにか用が足せたとしても、中腰ちようではウマク拭ふけないのである。白人たちが少しクツ付けたまま猿股ざるまたはいて、平気で歩いていられるなんて、信じがたいことだ。

そして私が「もしオマエさえ承知してくれるなら、オマルも持って行きたいのだが」と言つたとき、ヤツは「そんなら別々に行こうよツ!!」とモノスゴイ劍幕けんまくであつた。

## 二

家内にどう言われようと、私はオマルを持っていく決心を変えなかつた。かの素晴らし森と湖と氷河のカナダ国を、お尻しりに少しクツ付けたまま旅することは、私自身も氣色わるいし、先方にたいしても、礼を失すると思うからであつた。

だが、物置小屋から探しだしてきたブリキのオマルは、しまうとき家内がよく洗つておかなかつたせいもあつて、赤錆あかさびだらけであり、とりわけ、白く塩分がこびりついた部分な

どは、腐蝕がひどく、穴だらけだった。ちなみに私が顔をいれて空を仰ぐと、青空が透けて見えて、はたせるかな、白い粉がさらさらと目にも口にも落ちてきて……。まさしく塩であった。

その足で私は、裏通りの三治郎商店へいった。過日、ここへ往診したとき、店にオマルがあったのをしかと見とどけていたからだ。

大将が奥から出てきて言った。

「オヤー？ 眉毛も髭も真っ白にして、いったい何事ですか、センセ」

私は、誤って塩をかぶってしまったのだと言った。

すると大将は、人さし指をベロで濡らし、私の髭から白い粉をねばして、またたく間にナメて言った。

「ほんと、しょっぱいや」

店にあったオマルは、赤ちゃん用の、アヒルの顔をした可愛いやつであった。私が跨るにはやや小さすぎるようであったが、見た目に美しく、愛らしく、持ちほこびにも便利であった。そして帰国のさいは、森の湖に浮べて捨ててくれば、鴨たちが仲間に入れて可愛がってくれそうであった。

で、それを買った。

でも家内は、まアだ言うのである。

「もう、ラーメンやうどんで、荷物は持ちきれないんだからねッ。どうしても持っていきたいんなら、アヒルちゃんを首へぶらさげてつたらア。似合うよう。でも、ワタシのそばへは絶対に来ないでよッ!!」

ついに私は、オマルを諦めたのであった。便器のほかのもう一つの心配ごとは、飛行機だった。我が家にはまだスネを齧っている子供が三人もいるので、夫婦で落っこちてしまると、後がたいへんなのだ。

「せめて、俺だけでも助かればなア……」

私が言うと、負けじと家内も言った。

「ズルイよッ!! そんなら私が助かるウ」

「そりゃまあ、オメエだって、構わねえことは、構わねえけど……」

私は少しツマナげな声で言った。

「でもアンタは、結婚するとき、私に言ったんだからねッ。おぼえてないでしょッ!!」

私が首をかしげていると、家内がゾツとするようなことを言った。

「未来永劫、死ぬときも一緒、死んでもからも一緒だって!!」

一瞬、私は心臓が止りそうであった。ナントくだらぬことを、おぼえていやがる……。

このときに限らず、家内はしょっちゅう、「アンタおぼえてる?」と訊く。

たとえばヤツの誕生日とか、私たちが初めて逢った日とか、結婚記念日とかである。で



も私はヤツの誕生日だけは、すぐ言いあてることが出来る。すなわち、私の獵犬が生れたのが四月十八日であつて、それに三を足すとヤツの誕生日になるのである。だから簡単である。

では結婚記念日はどうかと言うと、結婚した記憶もないのであるから、無理である。そして初めて逢つた日なんかに至つては、私がモノオボエついた頃には、ヤツはもう我が家に住みついていたみたいであつて、不可解である。

でもヤツは、幾ぶん目を潤ませて、その日は九月十三日で、白い絹のように霧がけぶつていたと、夢みるように口走るのである。もしそれが事実だとすれば、たぶん金曜日だ。

そもそも今度の旅行の話がまとまつたのは、親しい友人がポツクリ死んで、三人の同級生が葬式に集まつたときだ。

「もう同級の医者の三分の一が、戦争と病気で死んでいる。俺たちも、いつポツクリいゝかわからねえぞ。今のうちにヤリてえことをヤッておかねえと……。だから一度、クラス会を外国でやってみねえか？」

三人が言い、そしてカナダに決めた。なかでも千葉の川崎が熱心だった。彼は大病院の院長でありながら、犬のグレートデン種に狂つていて、犬臭い男であるが、クラスきつての成功者だった。彼が八方へ連絡をとつた。だが最終的に参加したのは、葬式に集まつた